

病院紹介

川西赤十字病院



みなさん、こんにちは。川西赤十字病院です。

川西赤十字病院という名称ですが、これは平成の市町村合併前の川西地区（望月町、立科町、浅科村、北御牧村）で唯一の病院であることから名付けられたものです。

病院は佐久市の西部ゾーンにあり、ここは農業、健康、歴史文化のゾーンと位置づけられております。ここを拠点として周辺の地域医療に役立つように努力してまいります。

川西赤十字病院 大内 悦雄 院長

当院の歴史

当院の設立は昭和6年で、当地方で最も歴史ある公的病院です。当初は組合立として設立され、昭和23年に日本赤十字社に移管されました。この間、太平洋戦争中には陸軍士官学校が望月に疎開されたのに伴い、その付属医務室となっております。

長い歴史がありますので、おじいさん、おばあさんのころから世話になったとか、以前は産婦人科もあったので当院で産まれた方も大勢おり、地域の皆さんとは深く結びついております。

当院の構成

現在の病床は84床で、一般病床48床、療養病床36床であります。

診療科は、内科、外科、整形外科、循環器科、消化器科、リウマチ科、リ



運営方針

ハビリテーション科、眼科を標榜しております。婦人科は検診をおこなっております。付属施設として、居宅介護支援事業所、訪問看護センター、包括支援センターがあります。

当院は日本赤十字社が運営する病院です。全国に92ある日赤病院グループの一つとして活動しております。運営の基本は赤十字の定めた7つの原則によります。その第1が「人道」で、当院の理念にも掲げてあります。日本赤十字社の活動の重要項目の一つに、災害救護活動があります。当院も災害時には役立ちつうように救護班を編成し、訓練に参加しております。

診療機能としては、地域一般病院の役割を果たしてまいります。これは国の方針でもあり、一つの病院で完結する医療ではなく、地域で連携して完結する医療の一翼を担うものです。特殊な疾患や外傷ではなく、日常一般にみられる病気や外傷を扱います。特殊な病気や外傷の場合にはその機能を有する病院と連携して紹介し、また逆紹介もしてもらいます。そして、療養病棟や、在宅医療、訪問看護など当院の有する施設を有機的に活用し、皆様のお役に立つ医療を考えています。

活動の実際

医局は、経験豊かな医師で編成しております。外国留学の経験者も数名おり、ペテランばかりです。信州大学、小諸厚生病院、浅間病院からも非常勤医師派遣などで支援を頂いております。昨今の全国的な勤務医不足の波は当院をも直撃しておりますが、諸方面の皆様のご支援を頂いてなんとか頑張っております。

看護部門、コメディカルなど他の職種も一生懸命頑張っております。リハビリテーション室は4人の理学療法士、作業療法士がおり新しい医療も加えて、みなさんをお迎えいたします。訪問看護、在宅医療は、高齢者の多いこの地域では必要度の高いものであり、年々依頼件数が増えています。



課題と展望

公立自治体病院の経営不振とその再建については、いろいろと紙面を賑わせておりますが、当院のような公的病院も同様です。根本原因は政府の医療費抑制政策にあり、まずこれを變えて欲しいと思います。そして自助努力でなんとか切り抜きたいと考えています。勤務医不足、医師の偏在化の問題も少しづつ落ち着いて来ております。ここ数年を耐え凌げば明るい未来が待っていると思っております。地域のみならず皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。